

現代の国語・言語文化

(三月一〇日)

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(I) 余が言文一致の由来

言文一致についての意見と、そんなたいした研究はまだしてないから、いっそひとつ (ア) ザン「ゲ」話をしよう。

それは、自分をはじめと言文一致を書いた由来——もすさまじいが、つまり、文章が書けないから始まったという一部

始終の (A) 顛末^{てんまつ}さ。

もう何年ばかりになるかしらん、よっぽど前のことだ。何かひとつ書いてみたいとは思ったが、(a) 元来の文章下手で (イ) 「カイ」モク方角が分からぬ。そこで、坪内先生のところへ行つて、どうしたらよからうかと話してみると、君

は円朝の落語を知つていよう、あの円朝の落語通りに書いてみたらどうかと言う。

で、(b) 仰せのままにやってみた。ところが自分は東京者であるから、いうまでもなく東京弁だ。すなわち東京弁の作物が一つできたわけだ。さっそく、先生のところへ持って行くと、(B) とくど目を通しておられたが、たちまちはたと

II

、これでいい、そのままでもいい、なまじつか直したりなんぞせぬほうがいい、と、こうおっしゃる。

自分は少し気味が悪かったが、いいと言うのを怒るわけにもゆかず、というものの、内心少しはうれしくもあつたさ。それはとにかく、円朝ばりであるから、むろん言文一致体にはなっているが、ここにまだ問題がある。それは「わたくしが……でございます。」調にしたものか、それとも、「俺はいやだ。」調で行ったものかということだ。坪内先生は、敬語のないほうがいいというお説である。自分は(c) 不服の点もないではなかったが、直してもらおうとまで思っている先生のおっしゃることではあり、まずともかくもと、敬語なしでやってみた。これが自分の言文一致を書きはじめたそもそもである。

しばらくすると、山田美妙君の言文一致が発表された。見ると、「わたくしは……です。」の敬語調だ。自分とは別派である。すなわち自分は「だ」主義、山田君は、「です」主義だ。あとで聞いてみると、山田君は初め、敬語なしの「だ」調を試みてみたが、どうもうまくゆかぬというので、「です」調に決めたという。自分は初め、「です」調でやろうかと思って、ついに「だ」調にした。すなわち、(H) 行き方が全然反対であつたのだ。

けれども、自分には（a）元来文章の素養がないから、ややもすれば俗になる、「突拍子もねえことを言やあがる。」
的になる。坪内先生は、もう少し上品にしくちやいけぬと言う。徳富さんは（そのころ「国民之友」に書いたことがあ
ったから）文章を言語に近づけるのもよいが、もう少し言語を文章にしたほうがよいと言うけれども、自分は両先輩の説
に不服であつた。というのは、自分の規則が、（iv）国民語の資格を得ていない漢語は使わない、たとえば、（v）ギョウ
「ギ」作法」という語は、もとは漢語であつたろうが、今は日本語だ、これはいい。しかし、「挙止閑雅」という語は、
まだ日本語の洗礼を受けていないから、これはいけない。「磊落」^{らいらく}という語も、「さっぱりした」という意味ならば日本
語だが、「石が転がっている。」という意味ならば日本語ではない。日本語にならぬ漢語は、すべて使わないというのが
自分の規則であつた。日本語でも、「（c）侍る」^{さむらひ}的のものは、すでに生涯の役目を終つたものであるから使わない。
どこまでも今のことばを使って、自然の發達に任せ、やがて花の咲き、実の結ぶのを待つとする。支那文や和文を強い
てこね合わせようとするのは無駄である、人間の私意でどうなるもんかという考えであつたから、さあ、馬鹿な苦しみ
をやつた。

問1 ————— (ア) (イ) (ウ) について、「 」内の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それ

ぞれ一つ選んで答えなさい。

解答番号は (ア) 1、(イ) 2、(ウ) 3 へ

(ア) ザン「ゲ」

① 相手のことを弱いと「アナド」る

② 五年前の記録まで「サカノボ」る

③ 後輩の気持ちを「オモンパカ」る

④ 社長から褒め言葉を「タマワ」る

(イ) 「カイ」モク

① 歴史で「カイ」ライ政権について学ぶ

② 彼を「カイ」ジュウして味方に引き入れる

③ 山の中で「カイ」キ月食を観察する

④ 実態と説明書の内容が「カイ」リしている

(ウ) ギョウ「ギ」

① 彼の言動は「ギ」マンに満ちている

② 彼女のキョ「ギ」の申請書にだまされる

③ 彼の自己「ギ」セイで成り立っている

④ 彼女の結婚式にシュウ「ギ」を用意する

問2

(a) (b) (c) について、

部分の正しい読み方を、次の①～④のうちからそれぞれ一つ選んで

記号で答えなさい。

解答番号は (a) 、(b) 、(c) へ

(a) 元来

① 「げんらい」

② 「げんく」

③ 「がんらい」

④ 「がんく」

(b) 仰せ

① 「ぎょう」せ

② 「おお」せ

③ 「おっしや」せ

④ 「あお」せ

(c) 侍る

① 「はべ」る

② 「しくじ」る

③ 「しす」る

④ 「へりくだ」る

問3 | (A) (B) (C) について、ここでの意味として最も適切なものを選びなさい。

解答番号は (A) 7、(B) 8、(C) 9へ

(A) 顛末^{てんまつ}

① 物事を振り返った時に分かる失敗談

② 物事が成功するために欠かせない秘訣

③ 物事の初めから終わりまでの事情

④ 物事に最初から定められていた運命

(B) とくと

① 急いだ様子で

② 他者に教え諭すように

③ 面倒くさそうに

④ 念を入れて充分に

(C) 不服

① 納得ができず不満に思う

② 理解ができず不明に思う

③ 尊敬ができず不快に思う

④ 安心ができず不穩に思う

問 4

(I) この文章のタイトルの最初にある「余が」の「が」と文法的に同じ用法で用いられている「が」を、次の①～④から一つ選びなさい。

解答番号は **10** へ

① あの子はふざけているようで根がまじめだからね

② 良かったら我が家にも遊びに来てくださいね

③ どうなるかと思って気が気じゃなかったよ

④ 彼女のために是が非でもこの会を成功させたい

問 5

本文中の

II

に当てはまる最も適切な慣用句を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

解答番号は **11** へ

① 膝を打って

② 口を濁して

③ 腹に据えかねて

④ 手を尽くして

問 6

(III) 「行き方が全然反対であった」とあるが、どのように反対だったのか。本文に即して最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

解答番号は **12** へ

① 筆者の二葉亭四迷は「です」調で書きたいと思いつつ坪内先生のアドバイス等もあり結局「だ」調に変更したのに対し、山田美妙は敬語なしの「だ」調を試したがどうもうまいかない経緯があつて「です」調に落ち着いた点

② 筆者の二葉亭四迷は坪内先生の説に渋々従い敬語を使わない「だ」調で書くしかないと初めから決めていたのに対し、山田美妙は「だ」調を試みはしたものの最終的には自身の主義をきちんと貫いて「です」調に落ち着いた点

③ 筆者の二葉亭四迷は文章の素養がないことを自覚しており坪内先生のアドバイスや円朝の落語を参考にして「だ」調を採用するに至ったのに対し、山田美妙は自身が目指す美文主義にこだわり理想的な「です」調をすんなりと完成させた点

④ 筆者の二葉亭四迷は敬語ありの「です」調から敬語なしの東京弁の「だ」調、さらに俗な響きである「やあがる」調にまで最終的に変化していったのに対し、山田美妙は「だ」調から「です」調へと上品さを求める方向に文章を高めていった点

問7 ————— (Ⅳ)「国民語の資格を得ていない漢語は使わない」とあるが、「国民語の資格を得ていない漢語」とは

どのようなものか。本文の内容に即して最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

解答番号は 13 へ

① 現在では日本語に浸透して一般的に使われているが、元々の出所は中国で使われる漢語であつた語

② 中国で漢語として一般的に使われているが、日本語としてはまだ馴染んでおらず使用頻度も低い語

③ 中国でも日本でも使われているが、元の漢語としての意味と日本語としての用法に違いがある多義的な語

④ 古代の日本語文章中では頻繁に使われているが、現代では中国の漢語としても古く感じられるような語

問8 ————— (Ⅴ)この文章を書いた「二葉亭四迷」による作品ではないものはどれか。次の①～④の中から適切なもの

のを一つ選びなさい。

解答番号は 14 へ

- ① 平凡 ② 小説神髓 ③ 其面影 ④ 浮雲

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

植物はモノではない。植物は生きている。しかし、それはどのような意味においてか。個体化された生の場合とは異なり、植物的生はネットワーク状の生である。その中心が至るところにあり、その周囲はどこにもない。植物の中心、それはどこにあるのか。捉えどころがない。植物は、絶えず分岐し再生する発展過程を通じて変化し、困難・障害を回避する。植物の世界を支配しているのは、死ではなく、まったく反対に、「(I) 潜在的不死性 (immortalité potentielle)」である。

この「潜在的不死性」という表現は、フランス人植物学者・樹木学者フランシス・アレの『樹木礼讃』から借りたものである。この事実上の不死性は、ある種の植物の群体的生態によって説明される。つまり、群体は、その個々の構成要素である単体の生を超えて持続する。樹木は群生的生態においては潜在的に不死であり、老化・老衰とは無縁である。とはいえ、それは樹々が永遠に生きるということを意味するのではない。樹々も死ぬ。しかし、樹々を死なせる原因は、風、火、寒さ、地滑り、森林伐採、種々の病原体などの II である。ビュルガは、アレとともに、植物と人間・

動物との間にある生態学的・生命論的に還元不可能な差異、植物の人間・動物に対する根源的な他性 (alterité) を強

調する。

アレは、一九九九年に刊行された『植物を讃えて』の中で、およそ次のようなことをすでに述べている。樹々とは何かと理解を試みようとする、途端に、私たちは、樹々はこれほどまでに私たちに親しい存在であるのに、それらが私たち人間とは Ⅲ であることに戸惑わざるを得ない。古代文学から現代文学まで枚挙にいとまがない樹木について、のあらゆる擬人化の誘惑に抗し、人間中心主義的な類比的思考を排し、樹木という謎、^(Ⅳ) 樹木という完全なる他性をまずは認めるところから始めよう。

出典（黒田昭信「他性の沈黙の声を聴く——植物哲学序説」）

問 1 ——— (Ⅰ) 「潜在的不死性」とあるが、植物の「不死性」とはどのようなことを表すか。次の①～④の中から

最も適切なものを一つ選びなさい。

解答番号は 15 へ

- ① 植物は単体だけみれば森林伐採や病原体などによって「死」らしきものを迎えることもあるが、それ自体の老衰というものは存在せず、一見死んだように見えても分岐したり再生したりして発展することも生じる。また、仮に単体の植物が枯死したとしても、それとまったく同じ遺伝情報を持った別の一株が再生したりするので、単体

② ではなく群体で生き続けていて、人間が定義するような個性を前提とした「死」は当てはまらないということ
植物は森林伐採や地滑りなどによって根こそぎその場所に存在しなくなる「死」らしきものを迎えることもある
が、中心を何とか捉えてその一部さえ残存していれば再生医療技術の応用で再生させることもできる。また、仮
にある土地で単体の植物が全滅したとしても、それに類似した種類の植物は世界の各地に見受けられ、その全て
が同時に全滅するとは考えにくいので、人間の言葉で想像するところの「死」は当てはまらないということ

③ 植物は群体で考えるとその土地の自然環境の変化によって同時に枯れるという「死」らしきものを迎えることも
あるが、個体の寿命というものは存在せず、元々の性質として永久に生き続けることができる。また、仮に目に
見える部分が枯れたとしても、地中にはネットワーク状に張り詰められた根っこが周囲に広がっていたりするの
で、植物単体がどこまでか捉えどころがなく人間が定義するところの個体の「死」は当てはまらないということ
④ 植物は種々の原因により一見すると人間的な「死」らしきものを迎えることもあるが、そもそも人間・動物とは
生命論面での捉えられ方が異なり生きていくといってもむしろモノに近いので「死」という呼び方はすぐわない。
また、仮に病気で枯れたとしてもあくまでモノ寄りの植物に対して擬人化して可哀そうだと感情移入するのはお
かしいので、人間の言葉で想像するところのマイナスイメージがつかまとう「死」は当てはまらないということ

問2 本文中の Ⅱ に当てはまる、最も適切な言葉を一つ選びなさい。

解答番号は 16 へ

- ① 内因 ② 外因 ③ 人災因 ④ 天災因

問3 本文中の Ⅲ に当てはまる、最も適切な言葉を一つ選びなさい。

解答番号は 17 へ

- ① 完全に等しい一なるもの ② 上下関係を内包する内なるもの
③ 全く異なった他なるもの ④ 影響を与え合わない無なるもの

問4 Ⅳ 「樹木という完全なる他性」とあるが、筆者は「樹木という他性」についてどのように考えているか。次の①～④から最も適切なものを一つ選びなさい。

解答番号は 18 へ

- ① 樹々は人間や動物とは生き方の共通点が見いだせないほど異なっているが、生態論や生命論の考えが及ばない範疇のモノとも異なるので、人間の側の常識を押し付けて敬遠したり過度に無下に扱ったりしないで、同じ生き物同士として適度な距離で付き合った方がよい

② 樹々は人間にとって親しみやすい存在でありながら、群体的に生態する形で発展してきた点で動物に近く人間とは生き方が全く異なるので、人間中心的に他の生態と類比したり動物と過度に差別化して扱ったりしないで、生命ネットワークに自然と組み込んだ方が良い

③ 樹々は人間とは生死のあり方からして根幹的に異なっているが、永遠に生きるというわけではなく不老不死と正確には呼べないので、人間の立場からの生死の定義に当てはめて礼賛しようとしたり変に神格化して扱ったりしないで、ただ無関心を装っていた方が良い

④ 樹々は人間にとって身近な存在でありながら、私たち人間や動物とは生態や生死のあり方からして根本的に違うものであるので、人間の側の常識にあてはめて理解しようとしたり変に擬人化して扱ったりしないで、ただ素直に違いを受け入れる態度を大切にされた方が良い

第3問 次の文章を読んで、それぞれの問いに答えなさい。

問1 次の文を読んで、空欄 (A) (J) に当てはまる最も適切な語句を、後の選択肢①～⑩の中から、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は (A) 19、(B) 20、(C) 21、(D) 22、(E) 23、

(F) 24、(G) 25、(H) 26、(I) 27、(J) 28へ

一年は初日の出とともに始まります。日の出を告げる縁起のいい動物といえば、 (A) ニワトリ。元日の朝一番に鳴くニワトリは、「初鶏」と呼ばれて俳句の世界では新年の季語になっています。

『広辞苑』によれば、ニワトリは「キジ目キジ科の鳥」で、「弥生時代に大陸からもたらされ、 (B) 広く飼養された家禽」だとのこと。「品種は (C) 多く、色彩・形態もさまざまだが、 (D) 頭頂に鶏冠とさかがある」のが特徴です。

漢字での書き表し方としては、「鶏」のほかに「雞」も挙がっています。「鶏」は (E) 「新字体」で、昔、正式とされていた「旧字体」では「鷄」と書くので、「雞」との違いは右半分だけ。「雉」は「ふるとり」と呼ばれる部首で、

(F) 三〇〇〇年くらい前の中国で使われていた「金文きんぶん (金石文きんせきぶん)」と呼ばれる漢字の祖先では(※注1) 図のような形をしていますから、鳥の絵から生まれた漢字であることは一目 (G) でしょう。

(H) 「鶏」と「雞」は、見た目は違いますが同じ漢字。日本でも、少し古い文章だと「雞」を見かけることもよくあります。 (I) 「奚」は、音読みにすると「けい」。音読みとは古い中国語の発音が日本語風に変化した

ものなので、この漢字が生まれたころの中国語でも力行音のような硬い響きで読まれていたと想像されます。

(J) 「鶏」「雞」に含まれる「奚」は、ニワトリの鳴き声の擬音ではないかといわれています。

(※ここでは図は省略してある)

出典 (円満字二郎 『漢字の動物苑』)

- | | | | | |
|--------|-------|-------|------|--------|
| ① いわゆる | ② 極めて | ③ そこで | ④ 瞭然 | ⑤ 最も |
| ⑥ もちろん | ⑦ 今から | ⑧ つまり | ⑨ みな | ⑩ ちなみに |

問2 次の文を読んで、空欄 (A) (I) に当てはまる最も適切な語句を、後の選択肢①～⑨の中から、

それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は (A) 29、(B) 30、(C) 31、(D) 32、(E) 33、

(F) 34、(G) 35、(H) 36、(I) 37へ

環境問題を (A) するには「持続可能な社会」を (B) することが必要だといわれています。持続可能性

(サステナビリティ)とは「将来世代のニーズを満たす可能性を損なうことなく現在のニーズを満たす」という考え方です。これは、環境倫理学の基本 (C) の一つである「世代間倫理」に関わります。

世代間倫理とは、現在世代にはまだ生まれていない将来の世代に配慮すべき (D) がある、という主張です。この主張には常識的に見える面と、非常識だと思われる面があります。これらを順に見ていきましょう。

将来世代に (E) する、ということは実は身近に行われています。たとえば、学校の部活動には (F) する

時期がありますよね。特に文化部はそうです。ある大学の文芸部では、活動が (F) し部員に元気がないときに、

過去の先輩たちが貯めてきた資金(部費)を使って旅行に行こうという案が出されました。そのときに、一人の部員が、「そのお金は新入部員が入らずに部費が足りなくなったときのために貯めてあるのであって、多少元気がないからとい

って自分たちの代で使うのはおかしい」と主張し、(G)はとりやめになりました。

この場合、将来の部員はまだ(H)していかないわけですが、それにもかかわらず、現在の部員の利益よりも将来の部員の利益が(I)されたことになります。そしてこの主張は「将来部員が入るかどうかわからないのだから、いない人のことを考える必要はなく、自分たちの代でお金を使ってよく、その結果あとで部がつぶれたとしても仕方ない」という主張よりも受け入れやすいと思われます。

~~~~~以下略~~~~~

出典（吉永明弘「まだ生まれていない人たちの幸せを考える必要があるのか」

- |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 旅行 | ② | 存在 | ③ | 主張 | ④ | 責任 | ⑤ | 優先 |
| ⑥ | 配慮 | ⑦ | 解決 | ⑧ | 構築 | ⑨ | 停滞 |   |    |

## 第4問 次の語句や口語文法に関する問いに答えなさい。

問1 次の(a)、(b)、(c)の空欄に入る適当な語を、それぞれ一つ選びなさい。

解答番号は (a) 38、(b) 39、(c) 40へ

(a) 舌鼓を( )

- ① 打つ
- ② 叩く
- ③ 鳴らす
- ④ 演じる

(b) ( )を食う (※びっくりする、の意味の慣用句)

- ① 石
- ② 泡
- ③ 水
- ④ 雲

(c) 温( )知新

- ① 冷
- ② 暖
- ③ 故
- ④ 現

現代の国語・言語文化 B日程

| 解答番号 | 正解 |
|------|----|
| 1    | 1  |
| 2    | 3  |
| 3    | 4  |
| 4    | 3  |
| 5    | 2  |
| 6    | 1  |
| 7    | 3  |
| 8    | 4  |
| 9    | 1  |
| 10   | 2  |
| 11   | 1  |
| 12   | 1  |
| 13   | 2  |
| 14   | 2  |
| 15   | 1  |
| 16   | 2  |
| 17   | 3  |
| 18   | 4  |
| 19   | 6  |
| 20   | 5  |
| 21   | 2  |
| 22   | 9  |
| 23   | 1  |
| 24   | 7  |
| 25   | 4  |

| 解答番号 | 正解 |
|------|----|
| 26   | 8  |
| 27   | 10 |
| 28   | 3  |
| 29   | 7  |
| 30   | 8  |
| 31   | 3  |
| 32   | 4  |
| 33   | 6  |
| 34   | 9  |
| 35   | 1  |
| 36   | 2  |
| 37   | 5  |
| 38   | 1  |
| 39   | 2  |
| 40   | 3  |
| 41   |    |
| 42   |    |
| 43   |    |
| 44   |    |
| 45   |    |
| 46   |    |
| 47   |    |
| 48   |    |
| 49   |    |
| 50   |    |